

第117期
中間
報告書

株主のみなさまへ

2019 / 12 / Vol.58



DOWA

証券コード:5714

連結決算ハイライト

※本冊子の数値は、単位未満を切り捨てて記載しています。

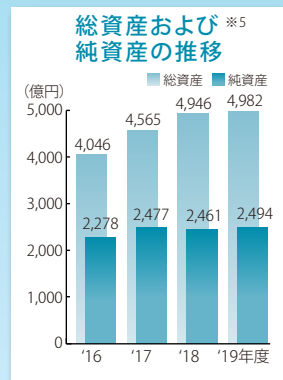
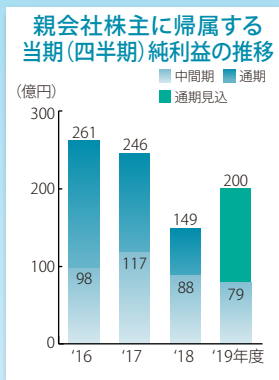
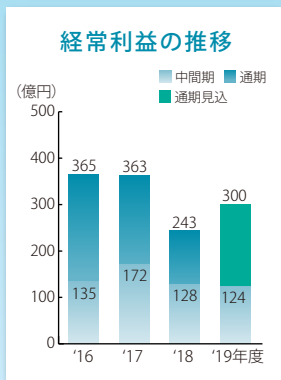
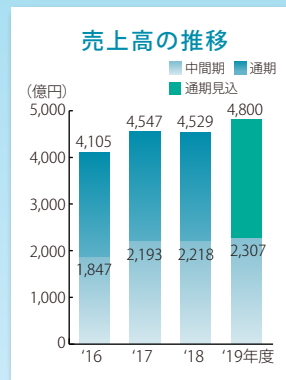
| | 2016年度 (2017年3月期) | 2017年度 (2018年3月期) | 2018年度 (2019年3月期) | 2019年度見込 (2020年3月期) | 2019年度中間期 (2020年3月期中間期) |
|-----------------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|------------------------|----------------------------|
| 売上高 (億円) | 4,105 | 4,547 | 4,529 | 4,800 | 2,307 |
| 営業利益 (億円) | 339 | 309 | 186 | 245 | 110 |
| 経常利益 (億円) | 365 | 363 | 243 | 300 | 124 |
| 親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益 (億円) | 261 | 246 | 149 | 200 | 79 |
| 総資産 (億円) | 4,046 | 4,565 ^{※4} | 4,946 | — | 4,982 |
| 純資産 (億円) | 2,278 | 2,477 | 2,461 | — | 2,494 |
| 1株当たり当期純利益 ^{※1} (円) | 88.43 | 417.21 | 253.22 | 337.92 | — |
| 1株当たり配当金 ^{※1} (円) | 18 | 90 | 90 | 90 | — |
| 1株当たり純資産 ^{※1} (円) | 741.06 | 4,035.06 | 4,008.03 | — | 4,055.34 |
| 総資産経常利益率(ROA) ^{※2} (%) | 9.5 | 8.4 ^{※4} | 5.1 | 6.0 | — |
| 自己資本当期純利益率(ROE) ^{※3} (%) | 12.6 | 10.8 | 6.3 | 8.4 | — |
| 設備投資額 (億円) | 265 | 246 | 240 | 340 | 169 |
| 減価償却費 (億円) | 157 | 172 | 186 | 202 | 90 |
| 有利子負債 (億円) | 798 | 1,098 | 1,352 | — | 1,463 |

※1 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株を1株の割合で株式併合を実施しています。2017年度以降の「1株当たり当期純利益」「1株当たり配当金」「1株当たり純資産」は株式併合後の金額です。

※2 ROAは経常利益を期中平均総資産で割って計算しています。

※3 ROEは親会社株主に帰属する当期純利益を期中平均自己資本で割って計算しています。

※4 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号2018年2月16日)を2018年度の期首から適用しており、2017年度については当該会計基準を遡って適用した後の数値です。



※5 '19年度については中間期末実績



2019年度（2020年3月期） 中間期の連結経営成績と 今後の取り組み

代表取締役社長
関口 明

2019年度中間期の連結経営成績

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2019年度（2020年3月期）中間期における当社グループの事業の状況と経営成績をご報告申し上げます。

自動車関連製品は、主に中国市場の減速による需要の低迷が継続しました。電子部品関連製品は、スマートフォン向け需要が引き続き低調に推移しました。一方、新エネルギー関連製品は中国市場向け需要が上向きました。

相場環境については、不透明感が高まる国際情勢を背景に、為替は円高基調が継続しました。また、金属価格は金や銀などの貴金属が上昇し、亜鉛や銅などのベースメタルは軟調に推移しました。

このような状況のなか、当社グループは「中期計画2020」（2018年度～2020年度）の基本方針である「成長

市場における事業拡大」、「既存ビジネスでの競争力強化」に基づき、企業価値向上への施策を着実に進めました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比4.0%増の2,307億円、営業利益は同18.3%増の110億円、経常利益は同3.1%減の124億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同10.9%減の79億円となりました。

（単位：億円）

| | 2018年度 上期実績 | 2019年度上期 | | 増減 | |
|----------------------|----------------|----------|-------|-------|-----|
| | | 計画※ | 実績 | 前年同期比 | 計画比 |
| 売上高 | 2,218 | 2,170 | 2,307 | 89 | 137 |
| 営業利益 | 93 | 85 | 110 | 17 | 25 |
| 経常利益 | 128 | 108 | 124 | △3 | 16 |
| 親会社株主に帰属 する四半期純利益 | 88 | 75 | 79 | △9 | 4 |

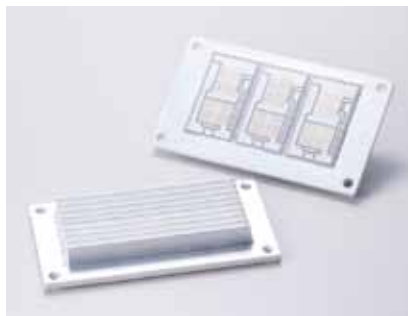
※2019年5月13日公表値

今後の取り組み

| 部門 | 中期計画2020の基本方針 | 担当事業 | 取り組み |
|----------|---------------|------------|--|
| 環境・リサイクル | 成長市場における事業拡大 | 海外事業 | タイにおける有害廃棄物の処理拡大とHV/EV用廃電池のリサイクルの開始、インドネシアやタイにおける廃棄物処理施設の新設・拡張および業容の拡充 |
| | 既存ビジネスでの競争力強化 | 廃棄物処理事業 | 低濃度PCB廃棄物をはじめとする難処理廃棄物の処理拡大、溶融・再資源化の処理量拡大 |
| | | 土壌浄化事業 | 自然由来汚染土壌に対応した浄化法による受注拡大、国内の埋立処分場の新設・拡張 |
| 製錬 | 成長市場における事業拡大 | PGM(白金族)事業 | 使用済み自動車排ガス浄化触媒の集荷拡大に向けた海外における原料集荷・サンプリング拠点の拡充 |
| | 既存ビジネスでの競争力強化 | 亜鉛事業 | 亜鉛の増産に向けた原料中不純物除去設備の建設推進 |
| | | 貴金属銅事業 | 小坂製錬(株)におけるリサイクル原料など多様な原料の処理推進、すずの高純度化 |
| 電子材料 | 成長市場における事業拡大 | 亜鉛事業 | 自社製錬所向け原料の長期的な安定確保に向けたロス・ガトス 銀・亜鉛・鉛鉱山の本格操業、パルマー亜鉛・銅プロジェクトにおける探鉱活動の継続 |
| | | 半導体事業 | ヘルスケア機器向けなどの新規LEDの特性向上およびサンプルワーク拡大 |
| | | 電子材料事業 | 発電効率の高い新型太陽光パネル向け銀粉の拡販 |
| | | 機能材料事業 | 次世代のアーカイブ用データテープ向け磁性粉の拡販、燃料電池材料の拡販 |
| 金属加工 | 成長市場における事業拡大 | 研究開発 | コンデンサなどの電子部品向け導電性アトマイズ粉の拡販や電磁波シールド向けナノ銀粉の量産化など新規製品の早期事業化 |
| | | 伸銅品事業 | 自動車の電動化・知能化やIoT関連電子部品の中長期的な需要拡大を捉えた高特性銅合金の拡販、国内拠点の設備増強と増産、中国・タイ・台湾拠点を活用したアジア向け拡販 |
| | | めっき事業 | メキシコならびにタイ拠点の本格稼働、日本やタイのめっきラインの生産性向上と増産 |
| 熱処理 | 成長市場における事業拡大 | 回路基板事業 | 金属-セラミックス基板の主力製品および新規製品の増産、自動車向けおよび鉄道向けの拡販 |
| | | 工業炉事業 | 国内外の自動車部品メーカー向け需要取り込みに向けた製品ラインナップの拡充、メンテナンス事業の収益力強化 |
| | | 熱処理事業 | 国内拠点の生産性向上と増産、インドにおける新拠点の立ち上げ、中国・タイ・インドネシアにおける先行投資と収益力強化 |



操業を開始したメキシコのロス・ガトス鉱山



自動車向けの金属-セラミックス基板



インドネシアの熱処理加工拠点

2019年度(2020年3月期)の見通し

2019年度の業績予想については、上期の業績と下期の事業環境などを勘案し、売上高は前期比270億円増の4,800億円、営業利益は前期比58億円増の245億円、経常利益は前期比56億円増の300億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比50億円増の200億円を計画しております。

世界経済の情勢は、米中貿易摩擦の影響などにより、

先行き不透明な状況が続いております。今後も市場動向を見極めながら、顕在化した課題への対応を進めるとともに、「中期計画2020」に織り込んだ成長に向けた各施策を着実に実行してまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

損益計算書

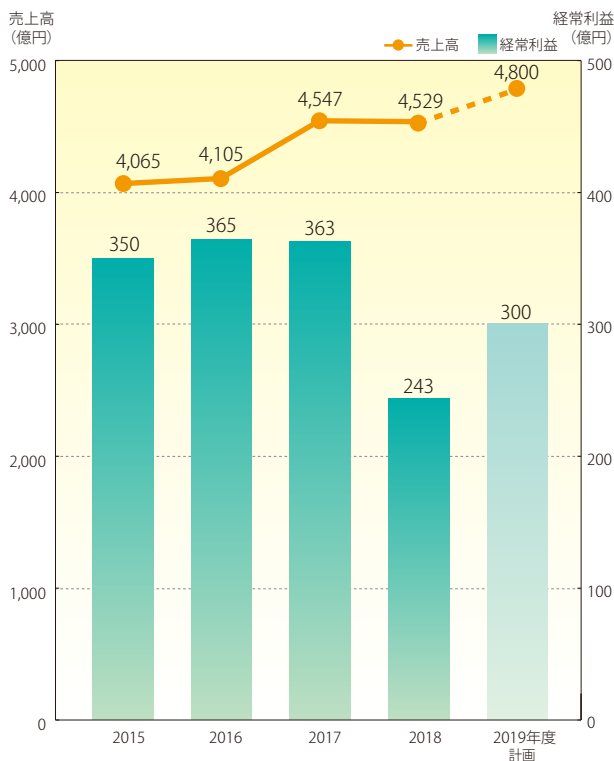
(単位:億円)

| | 2018年度 実績 | 2019年度 計画 | 増減 |
|---------------------|--------------|--------------|-----|
| 売上高 | 4,529 | 4,800 | 270 |
| 営業利益 | 186 | 245 | 58 |
| 経常利益 | 243 | 300 | 56 |
| 親会社株主に 帰属する当期純利益 | 149 | 200 | 50 |

為替相場、金属価格

| | 2018年度 | | 2019年度 | |
|-----------|--------|-------|--------|-------|
| | 上期実績 | 通期実績 | 上期実績 | 下期前提 |
| 為替 (¥/\$) | 110.3 | 110.9 | 108.6 | 108.0 |
| 銅 (\$/t) | 6,487 | 6,341 | 5,956 | 5,700 |
| 亜鉛 (\$/t) | 2,824 | 2,746 | 2,554 | 2,500 |

これまでの業績推移と2019年度の計画



❑ DOWAの廃棄物処理事業～東南アジア事業を拡大

DOWAの環境・リサイクル事業は、廃棄物処理、リサイクル、土壌浄化などの分野から構成されています。「地球を舞台とした事業活動を通じ、豊かな社会の創造と資源循環社会の構築に貢献する」という企業理念のもと、国内事業を強化するとともに、主に東南アジアでの事業拡大を進めています。

● 廃棄物処理事業の始まり

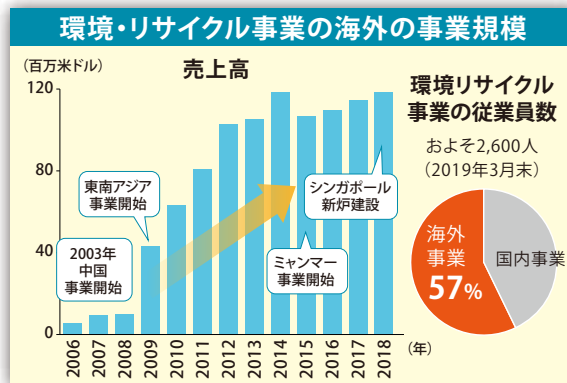
当社は1916年より岡山県において鉱山を経営し、採掘された鉱石を原料に硫酸などを生産していました。しかしながら、高度成長期の終焉とともに硫酸の需要は急速に減少し、当社の鉱山経営は苦境に陥りました。そのような状況から脱却するため、1977年に排ガス処理や熱コントロールなどの鉱山・製錬技術を転用して、産業廃棄物の焼却処理を行う会社を鉱山の敷地内に設立し、廃棄物処理事業を開始しました。その後、1985年のプラザ合意による急激な円高を受け、今度は秋田県の鉱山経営がひっ迫していきます。その当時、岡山の廃棄物処理事業は軌道に乗りつつあったことから、秋田県においても産業廃棄物の焼却処理設備を建設したほか、鉱山の採掘跡地を最終処分場として転用しました。これらにより、岡山県、秋田県で廃棄物処理事業の原型が形成されていきました。



廃棄物焼却処理設備

● 東南アジアへの展開

東南アジアは経済の発展に伴い、廃棄物の排出量も増加傾向にあります。そのような事業環境のなか、当社は2009年に東南アジア3カ国に拠点をもつ産業廃棄物処理会社を買収しました。買収後、国内で培ってきた廃棄物処理技術や環境負荷低減技術を展開し、国内同様に収集・運搬から最終処分に至る一貫したビジネスモデルを構築することにより、東南アジアにおける事業規模を着実に拡大させてきました。



● 今後の施策

以下の取り組みを進めることにより、東南アジアにおける廃棄物処理事業をさらに発展させるとともに、冒頭に掲げた企業理念の実現を目指していきます。

① 処理施設の拡充

最終処分場・焼却炉などを既存拠点・未進出地域の双方で検討

タイ

ミャンマー

最終処分場の拡張建設中

同国初の管理型処分場



② 高度処理技術の展開

国内で培ってきた廃棄物処理技術を導入しサービスの充実を図る

シンガポール

タイ

難処理廃棄物に対応可能な低CO₂焼却処理設備

廃棄物発電やフロン破壊処理が可能



③ 新規リサイクルシステムの構築

リサイクルシステムの整備に関与し市場を開拓する

大手自動車メーカーの自動車リサイクルプロジェクト(タイ)に廃棄物適正処理パートナーとして参画



解体

【有価物】
中古部品
金属 など

リユース・
リサイクル

【廃棄物】
フロン
潤滑油
エアバッグ

DOWA
による
適正処理

④ リサイクル原料の集荷強化

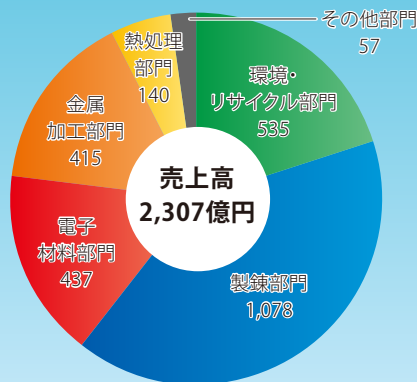
電子廃棄物リサイクル制度化の動きに対応し原料集荷を強化

解体・分離などのリサイクル技術を東南アジア地域に導入し、原料集荷体制を確立



部門別の営業状況

部門別連結売上高構成 (2019年度 中間期)



※各部門の売上高には、連結調整による消去分356億円を含んでいます。

凡例 — 通期売上高 — 中間期売上高 — 通期経常利益 — 中間期経常利益

※'19年度の通期は見込です

環境・リサイクル部門

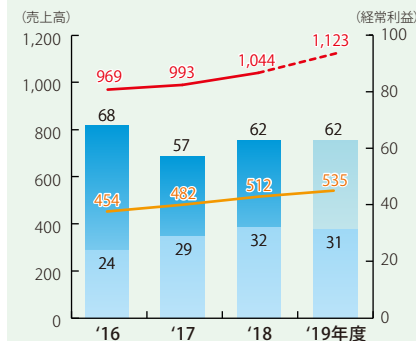
廃棄物処理事業は、廃棄物の焼却処理量および溶融・再資源化の処理量とともに増加しました。土壌浄化事業は、受注が増加したものの利益は減少しました。リサイクル事業は、家電リサイクルの処理量が増加しました。海外事業は、廃棄物の処理量が減少しました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比4.4%増の535億円、営業利益は同22.5%増の34億円となりました。経常利益は、持分法適用会社が減益となったことなどにより同1.2%減の31億円となりました。



溶融・再資源化処理施設

売上高・経常利益の推移 (単位:億円)



製錬部門

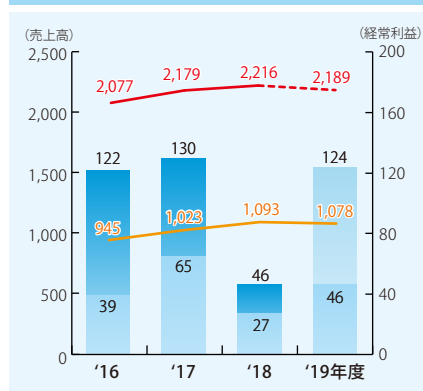
貴金属銅事業は、銅の国際価格下落に加えて、銅やすずの生産量が減少しました。PGM（白金族）事業は、使用済み自動車排ガス浄化触媒からの金属回収量が増加しました。亜鉛事業は、亜鉛およびインジウムの国際価格下落や電力単価上昇の影響を受けたものの、亜鉛のたな卸資産の簿価切り下げ額による損失幅は縮小しました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比1.4%減の1,078億円、営業利益は同1,974.2%増の34億円となりました。経常利益は、持分法適用会社が減益となったことなどにより同72.8%増の46億円となりました。



使用済み自動車排ガス浄化触媒

売上高・経常利益の推移 (単位:億円)



電子材料部門

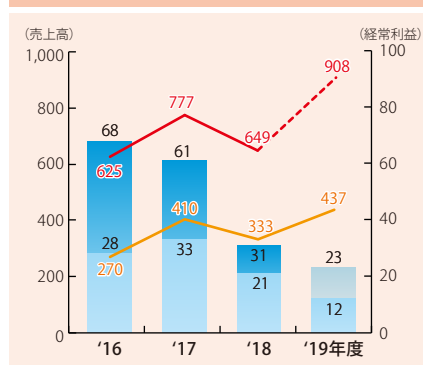
半導体事業は、スマートフォン向けLEDの需要が低調に推移しました。電子材料事業は、太陽光パネル向け銀粉の中国市場向け需要が上向きでした。機能材料事業は、顧客での在庫調整によりアーカイブ用データテープ向け磁性粉の需要が減少しました。新規製品については、導電性アトマイズ粉や半導体接合材料などの特性向上と量産化に注力し、研究開発費が増加しました。

これらの結果に加え、銀地金代を含む銀粉の取引が増加したことなどにより、当部門の売上高は前年同期比31.5%増の437億円となりました。営業利益は同58.8%減の6億円、経常利益は同43.8%減の12億円となりました。



銀粉

売上高・経常利益の推移 (単位:億円)



部門別の営業状況

金属加工部門

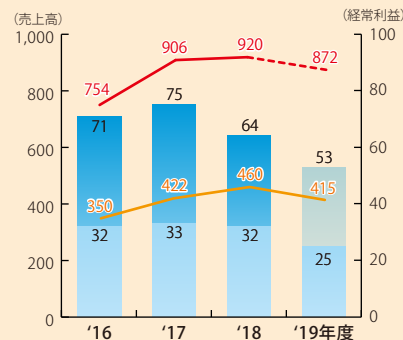
伸銅品事業は、自動車向けの需要が後退し、スマートフォン向けの需要は減少が継続しました。めっき事業は、自動車の電装化に伴う需要を取り込みました。回路基板事業は、産業機械向けの需要は減少したものの、鉄道向けや自動車向けへの拡販を進めました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比9.8%減の415億円、営業利益は同20.8%減の24億円、経常利益は同21.8%減の25億円となりました。



めっき加工品

売上高・経常利益の推移 (単位:億円)



熱処理部門

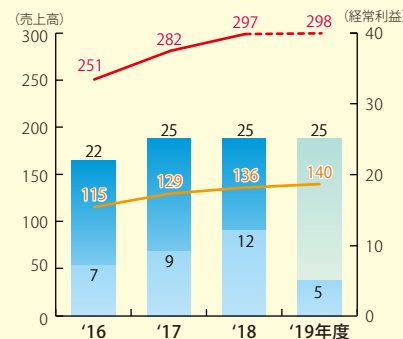
熱処理事業は、中国やインドにおける自動車生産台数が減少した影響により、受託加工数量が減少しました。また、設備増強に伴って減価償却費が増加しました。工業炉事業は、新規設備の受注が軟調に推移し、設備メンテナンスの受注は減少しました。

これらの結果、当部門の売上高は前年同期比2.7%増の140億円、営業利益は同50.6%減の6億円、経常利益は同56.3%減の5億円となりました。



インドの熱処理新拠点

売上高・経常利益の推移 (単位:億円)



地図で見るDOWAグループ

DOWAエコシステム(株)

- 1 蘇州同和資源综合利用有限公司(中国)
- 2 PT. PRASADHA PAMUNAH LIMBAH INDUSTRI (インドネシア)
- 3 Modern Asia Environmental Holdings Pte. Ltd. (シンガポール)
- 4 WASTE MANAGEMENT SIAM LTD. (タイ)
- 5 BANGPOO ENVIRONMENTAL COMPLEX LTD. (タイ)
- 6 EASTERN SEABOARD ENVIRONMENTAL COMPLEX CO., LTD. (タイ)
- 7 GOLDEN DOWA ECO-SYSTEM MYANMAR COMPANY LIMITED (ミャンマー)

DOWAメタルマイン(株)

- 8 バンクーバー事務所(カナダ)
- 9 Cariboo Copper Corporation (カナダ)
- 10 NIPPON PGM AMERICA, INC. (アメリカ)
- 11 メキシコ事務所
- 12 MINERA TIZAPA, S.A. DE C.V. (メキシコ)
- 13 MINERA PLATA REAL, S. DE RL. DE C.V. (メキシコ)
- 14 Nippon PGM Europe s.r.o. (チェコ)
- 15 DOWA METALS & MINING (THAILAND) CO., LTD. (タイ)
- 16 DOWA METALS & MINING AMERICA INC. (アメリカ)

DOWAエコシステム(株)

- 1 グリーンフィル小坂(株)
- 2 エコシステムリサイクリング(株) 北日本工場
- 3 エコシステム小坂(株)
- 4 オートリサイクル秋田(株)
- 5 環境技術研究開発センター
- 6 エコシステム秋田(株)
- 7 エコシステム花岡(株)
- 8 (株)エコリサイクル
- 9 DOWA通運(株)
- 10 機相双スマートエコカンパニー
- 11 メルテックいわき(株)
- 12 メルテック(株)
- 13 エコシステムリサイクリング(株) 東日本工場
- 14 エコシステムジャパン(株)
- 15 ジオテクノス(株)
- 16 イー・アンド・イー ソリューションズ(株)
- 17 エコシステム千葉(株)
- 18 エコシステム山陽(株)
- 19 岡山硫黄(株)
- 20 エコシステムリサイクリング(株) 西日本工場
- 21 エコシステム岡山(株)
- 22 バイオディーゼル岡山(株)
- 23 光和精鉱(株)
- 24 アクティブリサイクリング(株)

DOWAメタルマイン(株)

- 25 製錬技術研究所
- 26 小坂製錬(株)
- 27 (株)日本ピージーエム
- 28 秋田リサイクル・アンド・ファインバック(株)
- 29 秋田製錬(株)
- 30 秋田ジンクソリューションズ(株)
- 31 秋田レアメタル(株)
- 32 秋田ジンクリサイクルング(株)
- 33 (株)アシックス
- 34 ジンクエクセル(株)

DOWAエレクトロニクス(株)

- 35 半導体材料研究所
- 36 DOWAセミコンダクター秋田(株)
- 37 電子材料研究所
- 38 DOWAエフテック(株)
- 39 機能材料研究所
- 40 DOWAエレクトロニクス岡山(株)
- 41 DOWA IPクリエイション(株)

DOWAメタルテック(株)

- 17 同和金属材料(上海)有限公司(中国)
- 18 同和新材料(上海)有限公司(中国)
- 19 DOWA METALTECH (THAILAND) CO., LTD. (タイ)
- 20 Dowa Precision (Thailand) Co., Ltd. (タイ)
- 21 同和利精密部品股份有限公司(台湾)
- 22 DOWA METALTECH MEXICO, S.A. de C.V. (メキシコ)

DOWAサーモテック(株)

- 23 DOWA THT AMERICA, INC. (アメリカ)
- 24 昆山同和熱処理工業炉有限公司(中国)
- 25 DOWA Thermotech (Thailand) Co., Ltd. (タイ)
- 26 HIGHTEMP FURNACES LTD. (インド)
- 27 PT. DOWA THERMOTECH INDONESIA (インドネシア)
- 28 PT. DOWA THERMOTECH FURNACES (インドネシア)
- 29 DOWA THERMOTECH MEXICO, S.A. DE C.V. (メキシコ)
- 30 DOWA THERMOTECH NORTH CAROLINA, INC. (アメリカ)

その他

- 31 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION (アメリカ)
- 32 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION サンノゼ事務所(アメリカ)
- 33 同和企業管理(上海)有限公司(中国)
- 34 同和企業管理(上海)有限公司 深圳分公司(中国)
- 35 DOWA HD Europe GmbH(ドイツ)
- 36 DOWA HOLDINGS (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

DOWAメタルテック(株)

- 42 新日本プラス(株)
- 43 豊栄商事(株)
- 44 DOWA/ハイテック(株)
- 45 DOWA/パワーデバイス(株)
- 46 技術センター
- 47 DOWAメタル(株)
- 48 DOWAメタニクス(株)
- 49 TD/パワーマテリアル(株)

DOWAサーモテック(株)

- 50 DOWAサーモエンジニアリング(株) 真岡工場
- 51 DOWAサーモエンジニアリング(株) 太田工場
- 52 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松工場
- 53 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松北工場
- 54 DOWAサーモエンジニアリング(株) 中京半田工場
- 55 DOWAサーモエンジニアリング(株) 滋賀工場
- 56 (株)セム
- 57 東熱興産(株)

その他

- 58 DOWAテクノリサーチ(株)
- 59 卯根倉鉱業(株)
- 60 秋田工管(株)
- 61 DOWAテクノロジー(株) 関東テクノセンター
- 62 本社
- 63 DOWAグループ名古屋支店
- 64 DOWAグループ大阪支店
- 65 DOWAテクノロジー(株) 西部テクノセンター
- 66 DOWAテクノエンジニア(株)
- 67 陽和工管(株)
- 68 DOWA興産(株)
- 69 DOWAグループ九州支店

連結財務情報

連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目 | 2018年度 2019.3.31 | 2019年度 中間期 2019.9.30 | 比較増減 |
|-------------|---------------------|----------------------------|--------------|
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | 238,007 | 233,197 | △4,809 |
| 現金及び預金 | 20,118 | 26,727 | 6,609 |
| 受取手形及び売掛金 | 84,399 | 75,429 | △8,969 |
| たな卸資産 | 119,928 | 115,529 | △4,399 |
| その他流動資産 | 13,561 | 15,510 | 1,949 |
| 固定資産 | 256,675 | 265,015 | 8,339 |
| 有形固定資産 | 134,365 | 145,710 | 11,344 |
| 無形固定資産 | 7,714 | 7,405 | △309 |
| 投資その他の資産 | 114,595 | 111,899 | △2,695 |
| 資産合計 | 494,683 | 498,212 | 3,529 |

流動資産のポイント

受取手形及び売掛金が89億円、たな卸資産が43億円減少した一方で、現金及び預金が66億円、その他流動資産が19億円増加したことなどにより、前連結会計年度末比48億円の減少となりました。

固定資産のポイント

有形固定資産が113億円増加した一方で、投資その他の資産が26億円減少したことなどにより、前連結会計年度末比83億円の増加となりました。

総資産のポイント

以上の結果、前連結会計年度末比35億円の資産増加となりました。

(単位:百万円)

| 科目 | 2018年度 2019.3.31 | 2019年度 中間期 2019.9.30 | 比較増減 |
|----------------|---------------------|----------------------------|--------------|
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | 163,456 | 151,052 | △12,404 |
| 支払手形及び買掛金 | 43,449 | 36,584 | △6,865 |
| 短期借入金 | 36,885 | 38,845 | 1,960 |
| コマーシャル・ペーパー | 29,000 | 27,000 | △2,000 |
| 一年内償還予定の社債 | 10,000 | 10,000 | — |
| その他流動負債 | 44,121 | 38,621 | △5,499 |
| 固定負債 | 85,067 | 97,677 | 12,609 |
| 社債 | 10,000 | 20,000 | 10,000 |
| 長期借入金 | 49,355 | 50,464 | 1,108 |
| その他固定負債 | 25,711 | 27,212 | 1,500 |
| 負債合計 | 248,524 | 248,729 | 204 |
| 純資産の部 | | | |
| 株主資本 | 230,395 | 232,111 | 1,716 |
| 資本金 | 36,437 | 36,437 | — |
| 資本剰余金 | 26,044 | 25,928 | △115 |
| 利益剰余金 | 173,624 | 175,455 | 1,831 |
| 自己株式 | △5,710 | △5,710 | — |
| その他の包括利益累計額 | 6,818 | 7,902 | 1,083 |
| 非支配株主持分 | 8,944 | 9,469 | 525 |
| 純資産合計 | 246,158 | 249,483 | 3,325 |
| 負債純資産合計 | 494,683 | 498,212 | 3,529 |

負債のポイント

社債が100億円、短期借入金が19億円、長期借入金が11億円増加した一方で、支払手形及び買掛金が68億円、その他流動負債が54億円減少したことなどにより、前連結会計年度末比2億円の増加となりました。

純資産のポイント

親会社株主に帰属する四半期純利益を79億円計上し、配当金の支払いなどを行った結果、株主資本が17億円増加しました。また、その他の包括利益累計額が10億円増加し、純資産合計では前連結会計年度末に比較し33億円増加しました。この結果、自己資本比率は48.2%となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 2018年度 中間期 2018.4.1~ 2018.9.30 | 2019年度 中間期 2019.4.1~ 2019.9.30 | 比較増減 |
|---|---|---|--------------|
| 売上高 | 221,828 | 230,782 | 8,954 |
| 売上原価 | 193,447 | 201,270 | 7,822 |
| 売上総利益 | 28,380 | 29,512 | 1,132 |
| 販売費及び一般管理費 | 19,012 | 18,433 | △578 |
| 営業利益 | 9,367 | 11,078 | 1,711 |
| 営業外収益 | 4,826 | 3,284 | △1,541 |
| 営業外費用 | 1,345 | 1,910 | 564 |
| 経常利益 | 12,848 | 12,453 | △395 |
| 特別利益 | 416 | 408 | △8 |
| 特別損失 | 604 | 417 | △186 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 12,660 | 12,444 | △216 |
| 法人税等 | 3,995 | 3,996 | 1 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | △224 | 523 | 747 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 8,889 | 7,924 | △965 |

損益計算書のポイント

売上高は前年同期比89億円増の2,307億円、営業利益は同17億円増の110億円、経常利益は同3億円減の124億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同9億円減の79億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 2018年度 中間期 2018.4.1~ 2018.9.30 | 2019年度 中間期 2019.4.1~ 2019.9.30 | 比較増減 |
|---------------------|---|---|--------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 15,465 | 21,895 | 6,429 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △21,543 | △21,796 | △253 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 7,897 | 6,085 | △1,811 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △15 | 124 | 139 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 1,803 | 6,308 | 4,504 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 16,472 | 19,002 | 2,529 |
| 新連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 112 | 383 | 270 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 18,389 | 25,694 | 7,304 |

営業活動によるキャッシュ・フローのポイント

税金等調整前当期純利益124億円や減価償却費の計上90億円、売上債権の減少83億円などがあった一方で、仕入債務が64億円減少したことなどにより、218億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローのポイント

主に有形固定資産の取得による支出149億円、貸付による支出78億円などにより、217億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローのポイント

有利子負債の増加117億円などがあった一方で、配当金の支払い55億円などにより、60億円の収入となりました。

取締役・監査役



代表取締役会長
山田 政雄



代表取締役社長
関口 明



取締役
光根 裕



取締役
松下 克治



取締役
加賀谷 進



取締役
川口 純



社外取締役
細田 衛士



社外取締役
小泉 淑子



監査役(常勤)
雪竹 克也



社外監査役(常勤)
小林 英文



社外監査役
武田 仁



社外監査役
江川 茂

執行役員



執行役員
DOWAエコシステム(株)
代表取締役社長

飛田 実



執行役員
DOWAメタルマイン(株)
代表取締役社長

須山 俊明



執行役員
DOWAエレクトロニクス(株)
代表取締役社長

鈴木 浩二



執行役員
DOWAメタルテック(株)
代表取締役社長

菅原 章



執行役員
DOWAサーモテック(株)
代表取締役社長

辻 隆治



執行役員
DOWAテクノロジー(株)
代表取締役社長

山田 潔



執行役員
DOWAマネジメントサービス(株)
代表取締役社長

若林 英一

会社概要・株式の状況 (2019年9月30日現在)

会社概要

| | | |
|------------------|------------|---|
| 創業 | 1884年9月18日 | 主な事業内容 環境・リサイクル事業、 製錬事業、電子材料事業、 金属加工事業、 熱処理事業 |
| 設立 | 1937年3月11日 | |
| 資本金 | 364億37百万円 | |
| DOWAグループ の社員数 | 約6,900人 | |

株式の状況

| | |
|--------------|--------------|
| 会社が発行する株式の総数 | 200,000,000株 |
| 発行済み株式の総数 | 61,989,206株 |
| 株主数 | 10,388名 |

大株主

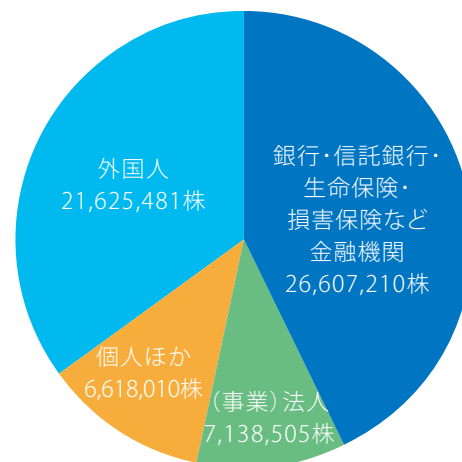
| | 持分比率 |
|--|--------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 11.09% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 8.13% |
| NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST | 5.64% |
| 藤田観光株式会社 | 4.79% |
| NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS | 3.23% |
| 全国共済農業協同組合連合会 | 3.06% |
| NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C NON TREATY | 2.15% |
| JFEスチール株式会社 | 1.87% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5) | 1.62% |
| 株式会社みずほ銀行 | 1.60% |

当社は自己株式1,888千株を保有しており、持分比率については、自己株式を控除しています。

主要子会社

| | |
|------------------|--------------|
| DOWA エコシステム(株) | 環境・リサイクル事業会社 |
| DOWA メタルマイン(株) | 製錬事業会社 |
| DOWA エレクトロニクス(株) | 電子材料事業会社 |
| DOWA メタルテック(株) | 金属加工事業会社 |
| DOWA サーモテック(株) | 熱処理事業会社 |

所有者別株式分布状況



株価および出来高の推移



株主メモ

| | |
|------------------------------|---|
| 決 算 期 | 3月31日 |
| 定 時 株 主 総 会 | 6月 |
| 基 準 日 | 3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告した日 |
| 期末配当金支払株主確定日 | 3月31日 |
| 公 告 方 法 | 電子公告 (http://www.dowa.co.jp) ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 |
| 株 主 名 簿 管 理 人 および特別口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| (郵 便 物 送 付 先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電 話 照 会 先) | 0120-782-031 (フリーダイヤル) |
| (ホーム ページ アドレス) | https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html |

DOWAホールディングス株式会社

〒101-0021

東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX22階

電話番号 03-6847-1100

ホームページアドレス <https://www.dowa.co.jp>

表紙写真：秋田製錬(株)の社員

